

会議の要旨（議事録）

会議の名称	第2回 鳥栖市まち・ひと・しごと創生有識者会議		
開催日時	令和8年1月21日(水) 19:20~	開催場所	鳥栖市役所2階第1会議室
出席者数	委員7人 事務局7人 (総合政策課)	傍聴人数	0人
議題	<p>1. 第3期“鳥栖発”創生総合戦略について 2. 鳥栖市転入/転出アンケートの結果について</p>		
配布資料	<p>【資料1】【参考】第2期からの変更点 【資料2】【概要版】第3期“鳥栖発”創生総合戦略について 【資料3】第3期“鳥栖発”創生総合戦略（案） 【資料4】鳥栖市転入/転出アンケートの結果について 【資料5】鳥栖市転入/転出アンケート調査報告書</p>		
所管課	(課名) 総合政策課 (電話番号) 85-3511		

第2回鳥栖市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

開会

事務局(総合政策課長)

議題1 第3期“鳥栖発”創生総合戦略について

事務局 -資料に沿って説明-

会長 3期戦略策定にあたり、基本目標を新たに策定し、総合計画より当該目標に該当する施策、指標を抽出したとの説明であったが、フォローできていない分野はあるか。

事務局 地方創生という視点では、2期戦略になかった環境や防災・防犯等の分野を加えることができ、全体的に網羅できていると考えている。

委員 指標にある福祉講座とはどのような講座内容か。

事務局 引きこもり支援や地域住民活動を社協と一緒に実施するもの。主には啓発活動だが、これらを継続的に実施していく。

議題2 鳥栖市転入/転出アンケートの結果について

事務局 -資料に沿って説明-

委員 転入・転出の理由において子育て支援や公園等の自然環境の充実は上位ではないが、転出者による市の改善点としては上位となっている。

私自身、市内に大きな公園がなく、土日にこどもと遊ぶ場として近隣市町へ出向くという声や、他市町の補助制度を羨む声、希望の保育所に入れず、やむなく親元を頼るために転出するといった声をよく聞く。

一方で、子育て支援センターの助けがあり楽しく子育てできているといった声や、医療費助成が助かっているという声も聞こえてくる。また、市役所の芝生広場でこどもや親子が遊んでいる様子を見ると、大きな遊具がなくともそうした場所があるだけで十分かと考える。

派手な設備や支援でなくとも、子育て支援が充実することで住み良さが向上し、人口減少に効果があるのではないかと考えている。

事務局 市民公園、中央公園の再整備を進めており、先日のワークショップでもたくさんの方の意見をいただいた。市民の方の声を踏まえて、充実した公園を整備していくたい。

委員 期間中における実際の転入・転出者を知りたい。WEBアンケートであるため回答者の属性や年齢が偏っているのではないか。

委員 関連して、今回、回答のなかった層の意見をどう取り込むかも課題である。例えば商工団地には単身赴任の方も多いが、今回の設問ではその判別が難しい。

事務局 期間中の転入・転出者数についてはデータを持ち合わせていないので、追って報告したい。なお、鳥栖市は働く世代の入れ替わりが激しいまちなので、アンケート回答者と実際の異動者の年齢についてはあまり乖離がないと考えている。

委員 アンケート項目の策定にあたり、参考にした他市町はあるか。同じ設問ごとに回

答を比較すると、見えることがあるのでは。

- 事務局 近いところでは北九州市が転出者向けにアンケートを実施している。本市のアンケートにおける設問は、移住・定住施策を検討する際の参考とするために新たに作成したものとなっている。
- 委員 異動の動機として、親の介護によるものも一定数いると考えている。次回の調査時に設問へ追加するとより詳細な分析ができると思われる。
また、転入者に「転入時点での不安点」を、転出者に「転出時点で感じた鳥栖の魅力」を聞くのはどうか。これにより、対外的にアピールすべき鳥栖の魅力が見えてくるのではないかと考える。
- 事務局 ありがたいご意見。次回の参考にしたい。
- 会長 転入・転出時点では子育て施策に関する関心は薄いが、市民満足度等の既に鳥栖市へ住んでいる人へのアンケートでは関心の強い分野だったと記憶している。この辺りを比較すると、得られるものがあるかも。
また、今回は分析をされていないと思うが、転入の内、1/3は市内転居とのことである。これは市に魅力を感じ、住み続けてくれているとの見方もでき、前向きに捉えることができると考えている。
- 事務局 市内転居について詳細な分析はしていないが、別の分析で持家へ住む層は市内転居が多いという結果があったと記憶している。委員のお見込みのとおりかと考える。
- 会長 アンケートについては、最も大きな要因について選択することになる。一方で、転入・転出は様々な事情が複合的に重なり合っている場合もあるので、結果にないことを持つてニーズがないと言い切ることができないと思われる。
- 委員 アンケートに自由記述の欄は設けていないのか。多様な意見が聴取できると思うが。
- 事務局 回答の心理的障壁とならないよう、設問を極力削っており、自由記述も設けていない。
- 委員 アンケートは最後に何か一言書きたいと思う方も多くいると思う。設問を設ける事で、回答数が上がることも考えられる。
- 委員 社会増減による
発展も大事だが、日本全体での出生数増加も考えていかなければならない。
- 事務局 鳥栖市は婚姻数こそ横ばいで推移しているものの、出生数は減っているのが実情。原因の分析に苦慮しているところだが、多様性としての面もあるのかなと考えている。
- 委員 多様性という面で言えば、鳥栖市は女性のパートタイムでも時給・環境ともに良いと感じている。そのため、仕事に邁進される方も多い。発展性のある鳥栖市だからこそ、目の前で仕事に打ち込むことへのやりがいを感じやすいのではないか。
- 委員 女性が活躍できているという点で非常によい事と思う。一方で、仕事とのバランスについて、保育所入所への不安や病児保育の利用についての不安なども聞いている。不安を和らげるような施策展開が必要では。

会長	子育ての不安軽減という視点でご意見をいただいた。この点、市としてもまだまだ打てる手があると思うがどうか。
事務局	子育て支援の充実というより、不安の軽減が求められているという大変よい知見をいただいた。表現の仕方含め、今後検討していきたい。
会長	仕事に意識が向いているというのは賛同できる。出生数の減少について意識の変化があるのであれば、行政が即時に対応していくのは難しいだろう。安定した賃金の確保など、生活面を支援するような取り組みが必要かもしれない。
委員	都市部では、こどもが熱を出した際に緊急でベビーシッターをお願いできるサービスもある。鳥栖市としても、子育ての安心感を醸成する取組に力を入れては。
委員	男性が家庭にもっと協力的になる施策を合わせて展開していくべき。例えば、鳥栖市として男性の育休をもっと推進すれば、民間への広がりも期待できる。
委員	今、委員から出た意見は、男女共同等の枠組みで、個別に議論されていくことになるという認識でよいか。
事務局	お見込みのとおり。
委員	鳥栖市に住みたいが、土地や部屋がなく隣町に住むという声も聞く。企業が立地し、新たな雇用を生む中で、定住に繋げることができていない実状があるので。
事務局	新築着工件数は近年減っており、ファイミリータイプの賃貸も少ないと聞く。委員ご指摘のような事象も起こっているのではと思う。
事務局	鳥栖市の子育て施策について、他市に比べてどう思うか。
委員	他市と比べて大きく劣ることはない。ただ、多子家庭のお子さんは医療費に負担が大きいため、完全無償化を羨む声や、出産後のおむつサブスクがあるとありがたいとの声、待機児童こそないものの兄弟児が別の保育所になり送迎が大変等の声は聞く。 子育てのサポートの部分についても、ファミサポ利用は・・・ベビーシッターも金額が高く断念されるケースを聞く。
会長	アンケートの結果から得た知見があれば聞かせていただきたい。
事務局	アンケートの結果により、効果の高い移住定住施策が打てることを期待したが、非常に多くの要因が複雑に絡みあっており、効果的な施策の立案は難しいと実感したところ。これについては、委員の皆さまよりいただいたご知見を踏まえて、引き続き検討を続けてまいりたい。 また、働く場を作り、住む場所を提供するという鳥栖市がこれまで行ってきた施策は引き続き有効であることを確認できた点も評価したい。

3 その他

(事務局) 今年の2月中旬に総合計画審議会を予定している。